

「全鍍連」 2021年5月号 巻頭言

全鍍連環境委員長 清川 肇 (清川メッキ工業(株) 代表取締役社長)

「大きく変わる」



新型コロナウイルス感染拡大は歴史に残る全世界レベルの災害となり、人々はなすすべもなく、我々が出来ることは感染を抑えるためのマスク、手洗い、人との距離をとるぐらいで、行事・イベントは中止、リモート会議が当たり前となり、社会生活が一変し生活様式が大きく変わってしまいました。人間はかくも非力な存在かと思ひ知らされた一年でした。

大変な時期というのは社会や人の成長にも大きく影響します。私たちは今、まさに時代の転換期にいます。これからの時代はコロナウイルスのみならず、災害や政治外交による通商問題、技術革新によるビジネスモデルの変革等、大きな変化がいつ起きてもおかしくない時代であり、未来の正確な予測は困難な時代なのではないかと思ひます。世の中が大きく変わるとき、消滅する産業もあれば、新しい市場や仕事が生み出されることもあります。

めっきは無くならないと考えますが、今の仕事が無くならないとは限りません。5年後にはめっき外観検査はAIを使った外観自動検査装置に取って代わり、めっき作業自体も全自動装置になり人が介さなくなっているかもしれません。しかし、5年、10年経っても人間にしかできない事は沢山あると思ひます。

環境委員会としても大きな変化に対応すべく、平成2年に始まった環境整備優良事業所表彰制度の見直しを31年ぶりに見直すこととしました。直近の令和2年度では1社のみ表彰となり制度は形骸化気味で、平成24年に始まった認定制度の違いも分かりづらいとの意見もあり、今後は審査基準の厳密化などの変更を行うことで、制度の価値を高めていきたいと思ひます。

「大きく変わる」を短縮すると「大変」となります。「大変」という言葉にはどちらかというとながタイプな意味が含まれていて、辞書で調べると「苦勞が並々ではないこと」と書いてあります。大変と感じる時は、それがまだ、現在の自分のレベルがその状況に追いついていない時です。「苦勞が並々ではないこと」を積み重ねることで、大変な状況を大変だと感じなくなった時、人は「大きく変わる」と言えると思ひます。

コロナを克服し、その中から数々のイノベーションが生まれる「大きく変わる」新たな時代を逞しく乗り切っていきましょう。

令和三年
清川肇
大きく変わる